

9月6日(金)18時20分より北秋田市民病院大会議室において「救急」をテーマに開催されました。平日の業務終了後でしたが会員38名の参加となりました。

最初の会員発表では「救急」に対する「私ならこう撮る!!撮影ちよい足し技術」の内容で、各施設から一般撮影1題、CT検査2題、MRI検査1題の技術紹介をして頂きました。

体位変換困難者の撮影法、適切な撮像法の選択、キー画像の作成、シーケンス検討、チェックシート活用など、迅速な撮影が命に係わる救急において、他施設の取組みや撮影法などは自施設又は技師個人が夜間休日救急体制の職務に携わるなかで、とても参考になり技師(力)量UPに繋がる発表となりました。

続いて学術講演では、北秋田市民病院の循環器内科診療部長 佐藤誠先生より「外傷救急の画像診断～Preventable trauma death(PTD)を減らすために～」と題して御講演頂きました。救急救命医としても活躍されている佐藤医師から救命できる施設・医師不足である県北地域の現状を踏まえて、いかに防ぎえた外傷死(PTD)を減らすかについて、死に至る状態から、その対応・処置などを分かり易くお話して頂き、最初の1時間の蘇生措置で予後が左右されることから、「TAFな3X、MAP、D(略)」確認が大事とのことでした。

防ぎえた外傷死(PTD)を減らすために、我々技師がどの様な立ち位置にいるのか、何が優先で何が必要なのか、どう対処すべきなのかを考えさせられました。

今回、技師としての外傷救急の画像診断の心得を教えて頂く貴重なセミナーとなりました。

(文責:羽澤)



